

5. 仕事と子育ての両立に関することについて

問20 あなたは、仕事と子育てを両立させるためには、どのような取組を進めることが必要だと思いますか。
次の項目の中から3つまでを選んで○をつけてください。

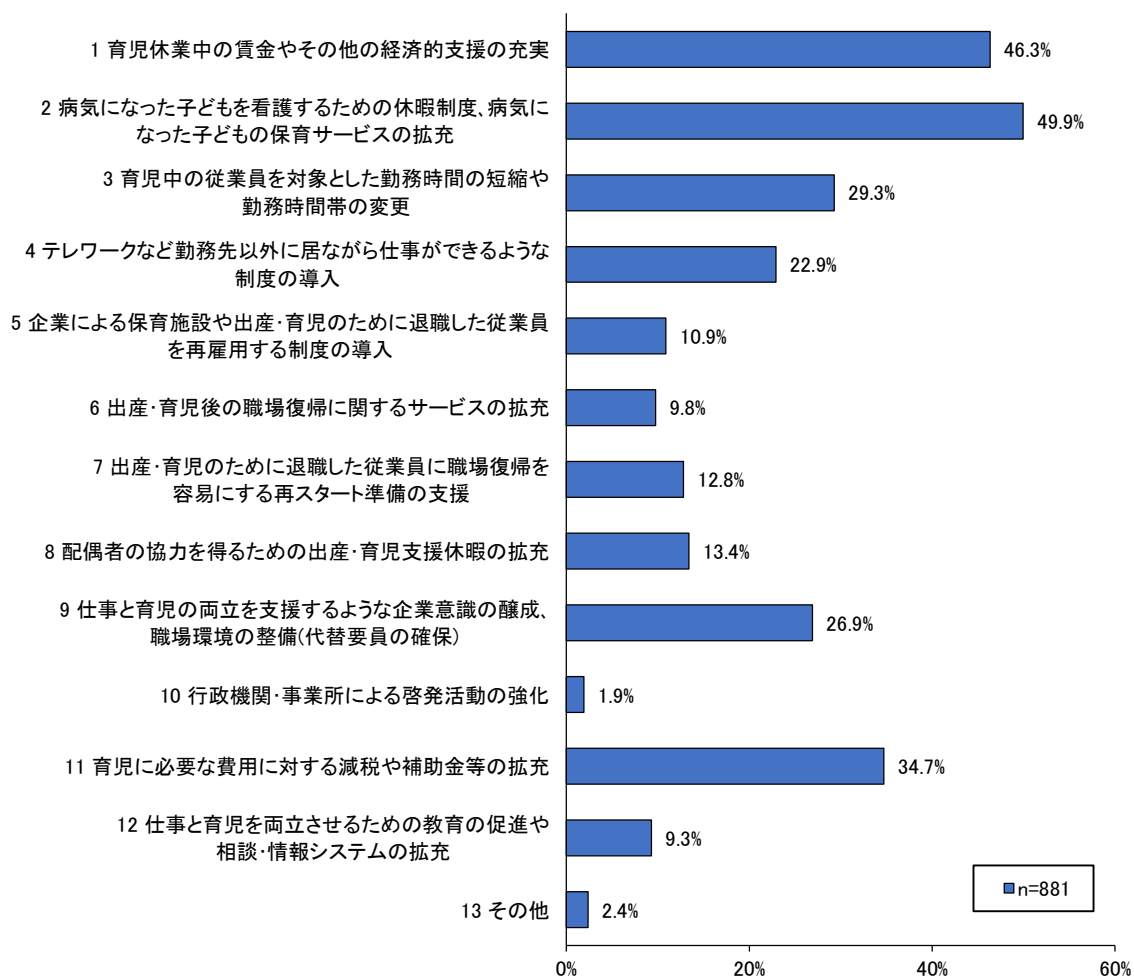
全体では、上位の3項目は「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」の割合(49.9%)が最も高く、次いで「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」(46.3%)、「育児に必要な費用に対する減税や補助金等の拡充」(34.7%)となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。その中で、「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」の割合は男性が女性を12.5ポイント(男性:54.5%、女性:42.0%)、「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」は女性が男性を9.3ポイント(女性:53.2%、男性43.9%)上回っています。

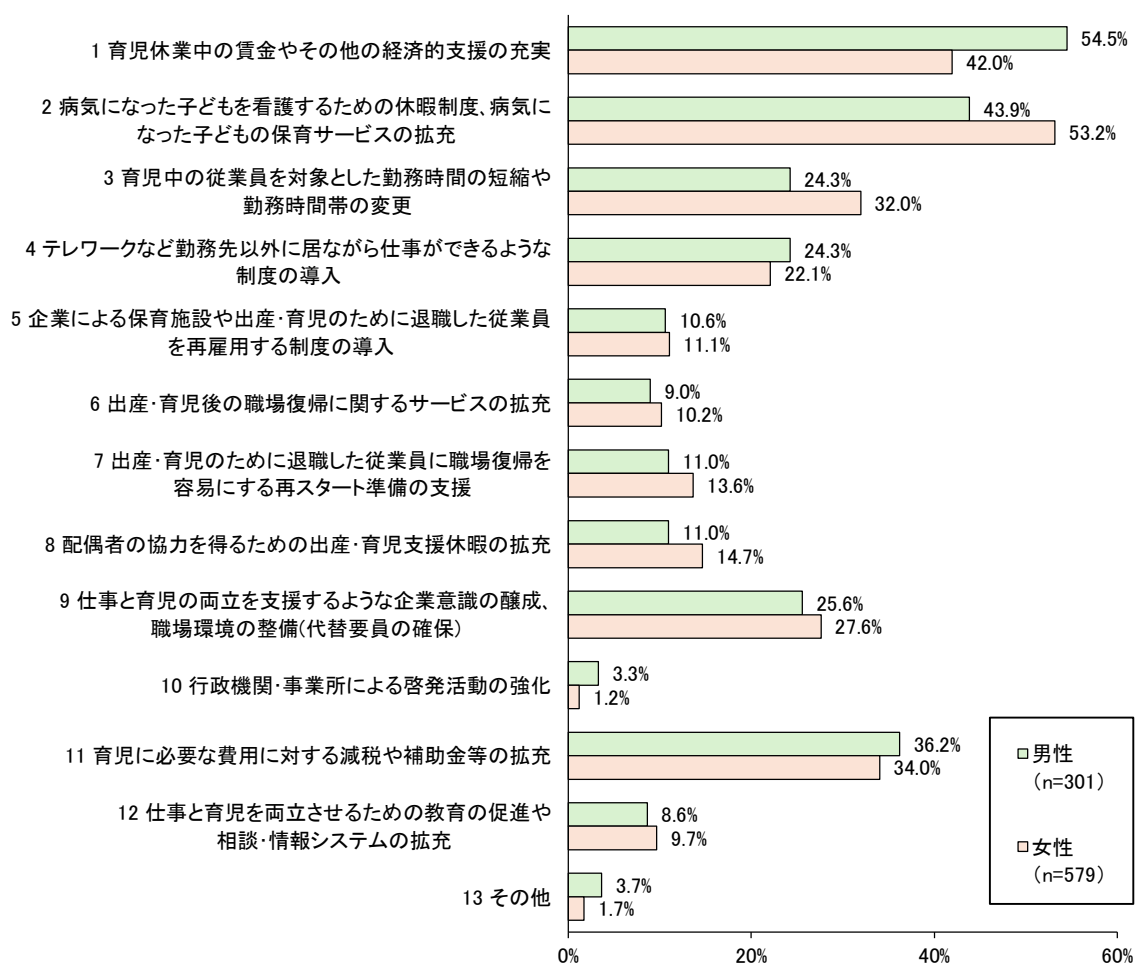
年代別では、各年代とも上位の項目の順位は全体とほぼ同じ結果となっています。その中で、「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」の割合は20歳代と30歳代が半数を上回っています(20歳代:56.6%、30歳代:52.9%、40歳代:37.0%)。

過去調査との比較では、上位の項目の順位と割合はほぼ同じ結果となっています。その中で、「育児休業中の賃金やその他の経済的支援の充実」の割合は高まる傾向(平成26年度:40.3%→令和元年度:37.0%→令和6年度:46.3%)、「病気になった子どもを看護するための休暇制度、病気になった子どもの保育サービスの拡充」の割合は低下する傾向(平成26年度:53.9%→令和元年度:50.2%→令和6年度:49.9%)で推移しています。

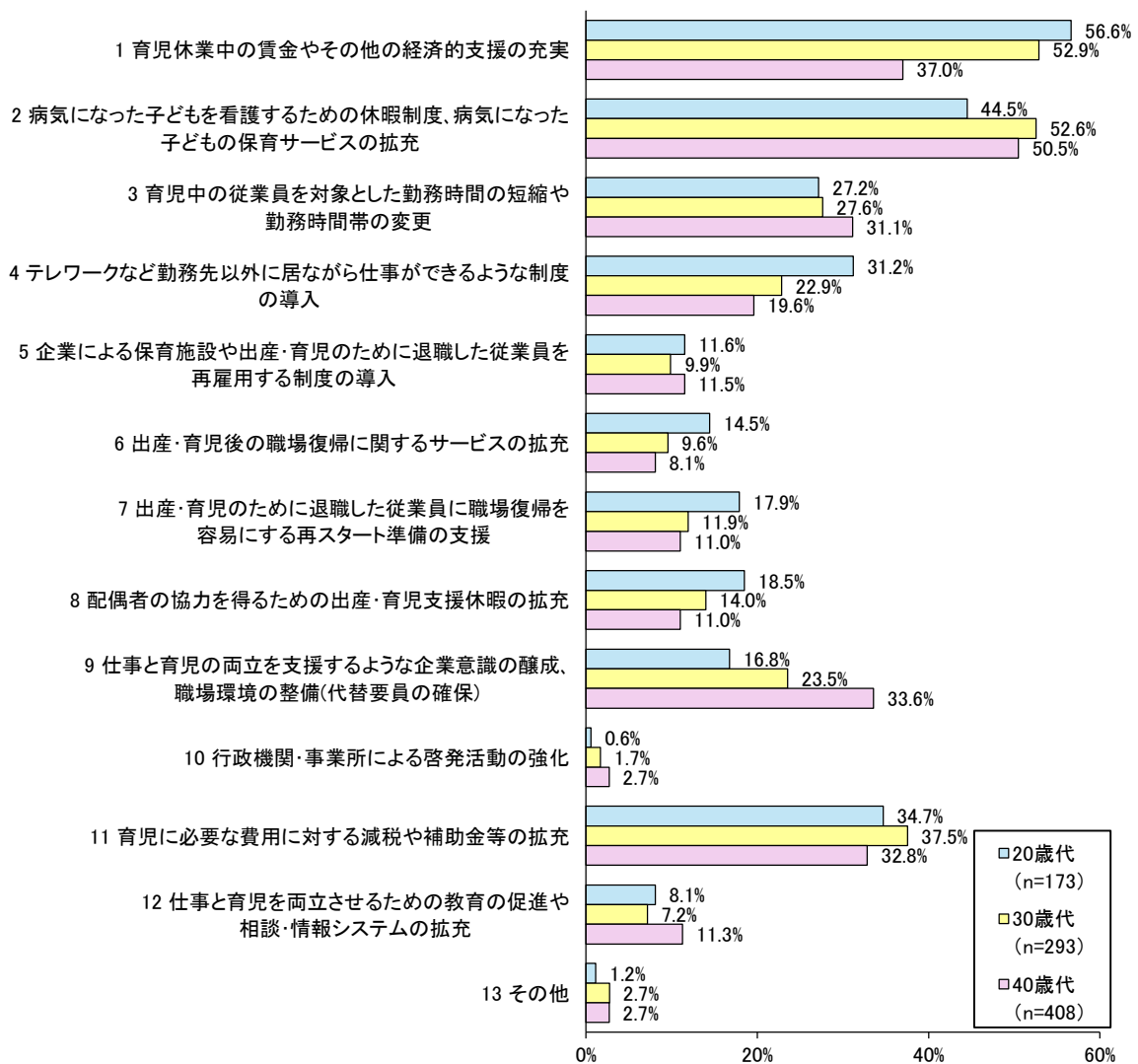
<全体>



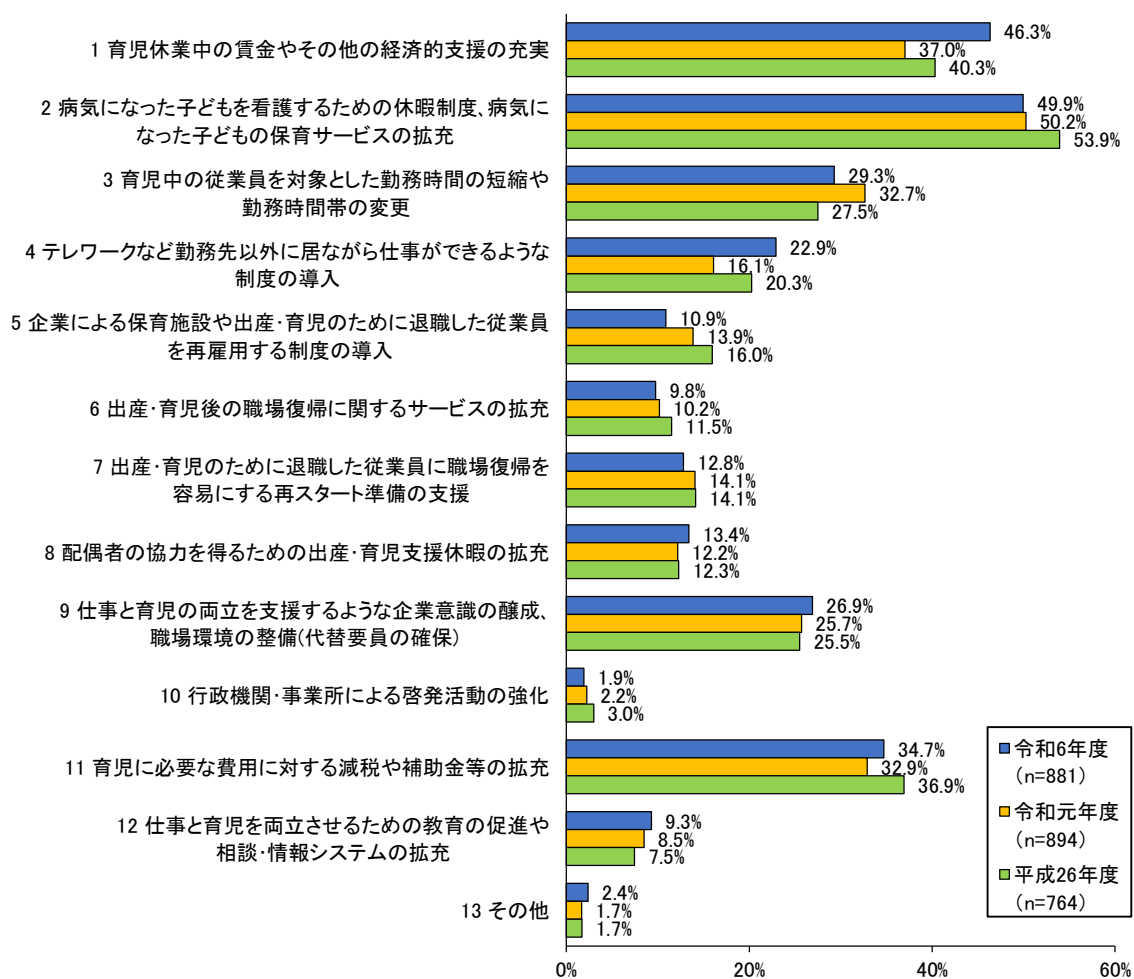
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問21 あなたは、今後、男性が女性とともに子育てに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

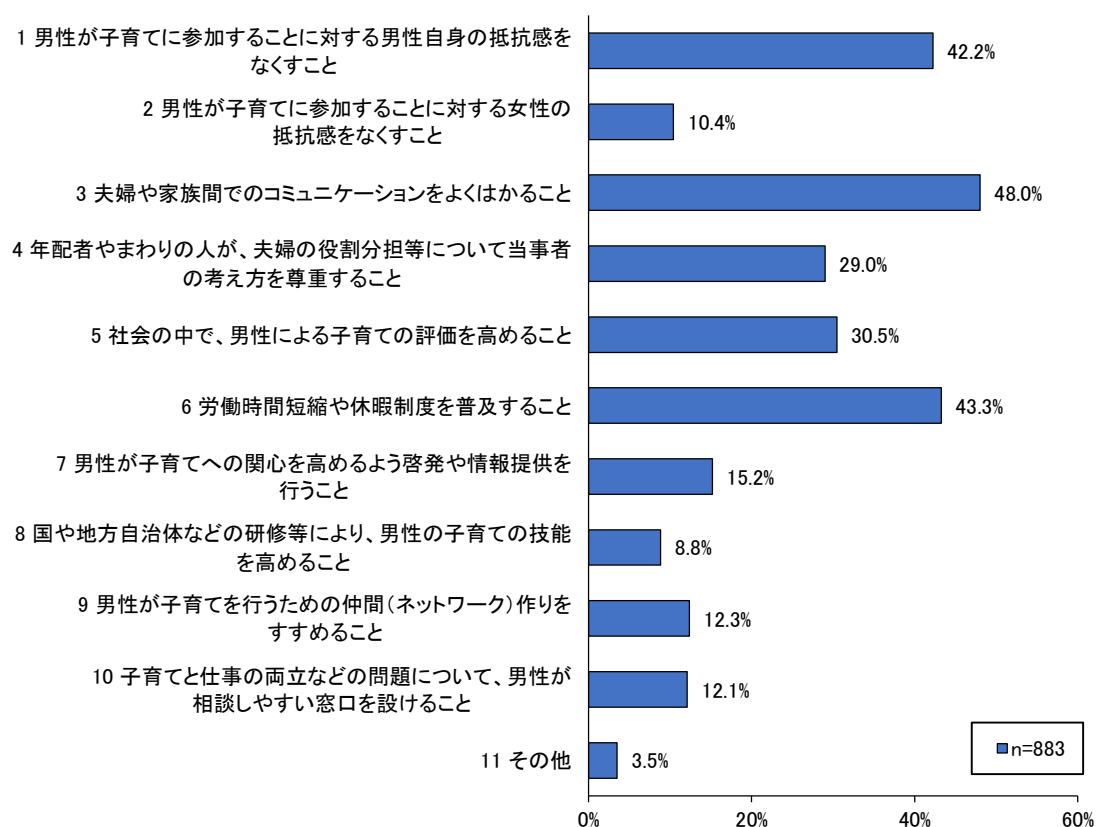
次の項目の中から3つまでを選んで○をつけてください。

全体では、上位の3項目は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合(48.0%)が最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及すること」(43.3%)、「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(42.2%)となっています。

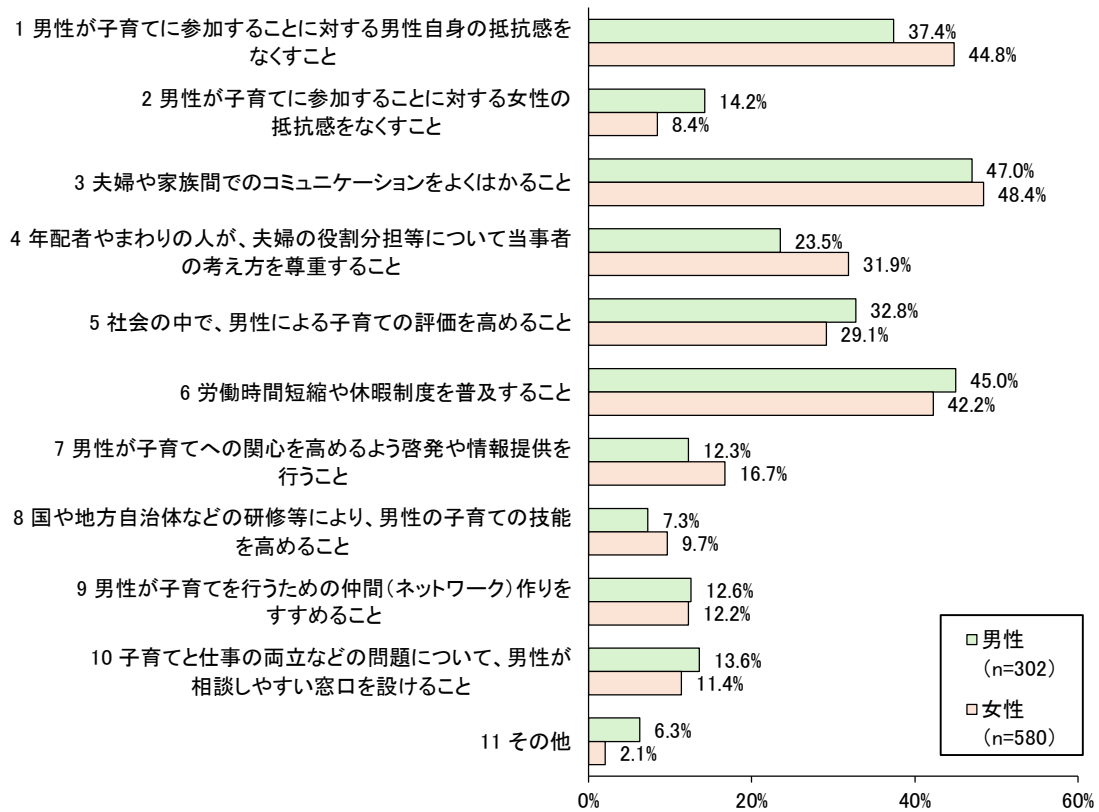
性別では、男女とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じとなっています。その中で、女性が男性を上回っている項目は「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」(女性:31.9%、男性:23.5%…8.4ポイント差)、「男性が子育てに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(女性:44.8%、男性:37.4%…7.4ポイント差)となっています。

年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

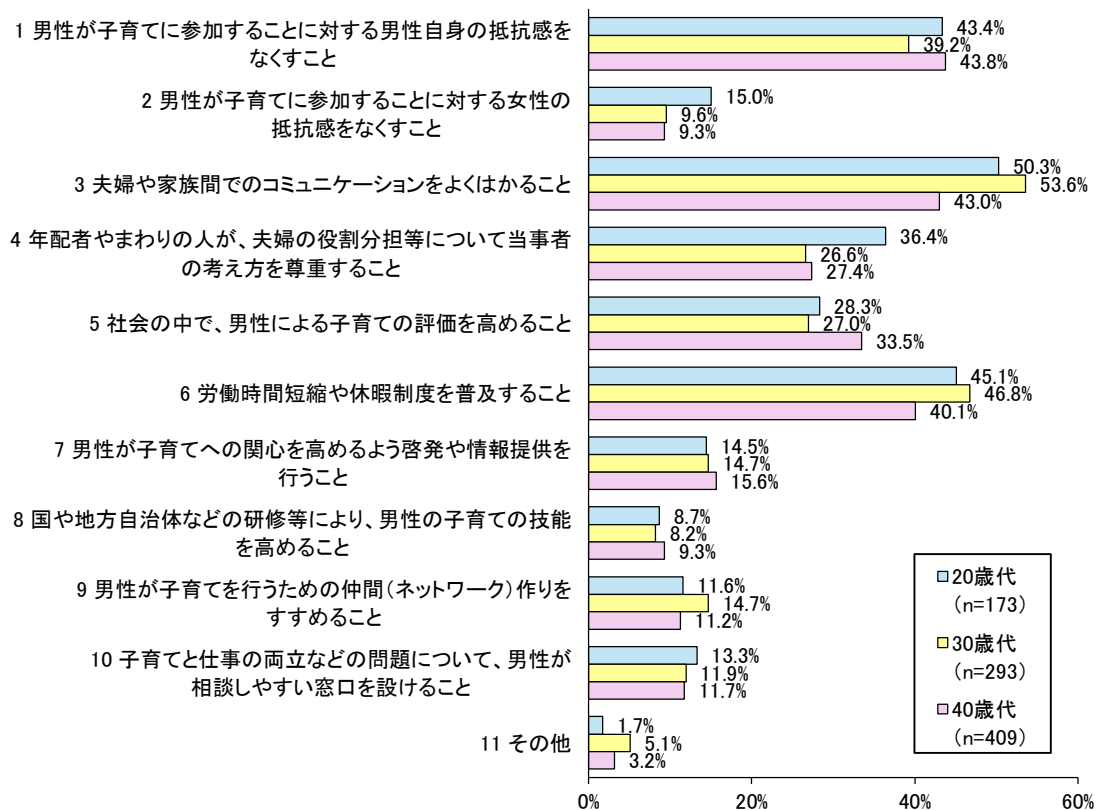
<全体>



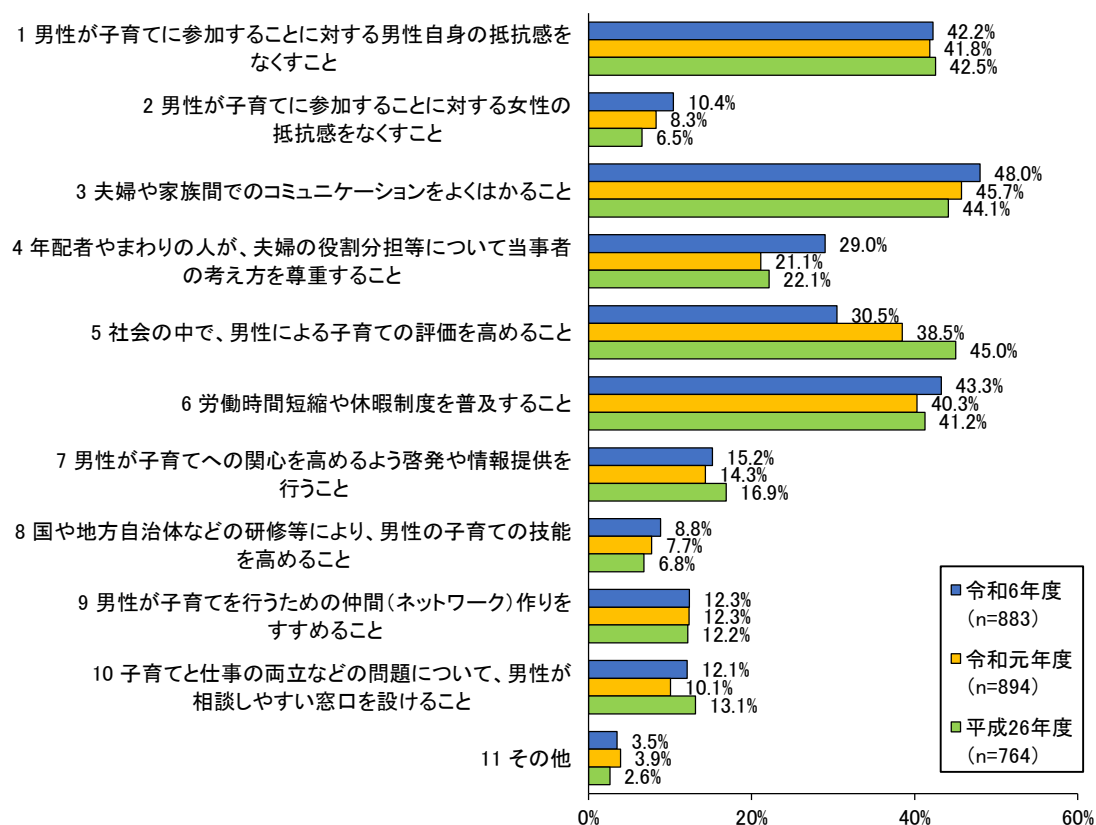
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問22 あなたは、育児休業制度を利用したいと思いますか。

次の項目の中から1つだけ選んで○をつけてください。

現在、働いていない人は、働いていると想定してお答えください。また、子育ての予定のない人は子育てすると想定してお答えください。

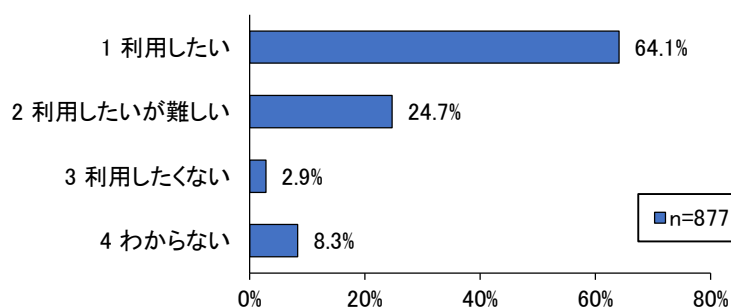
全体では、「利用したい」の割合が64.1%となっており、「利用したいが難しい」が24.7%、「利用したくない」が2.9%となっています。

性別では、男性は「利用したい」の割合(44.0%)が「利用したいが難しい」(38.1%)を5.9%上回っています。女性は「利用したい」が74.6%で「利用したいが難しい」(17.8%)を大きく上回っています。

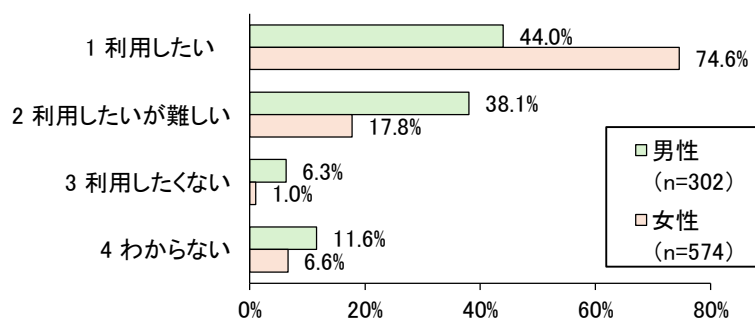
年代別では、「利用したい」の割合が各年代とも6割以上となっています。その中で、「利用したいが難しい」は20歳代が他の年代をやや下回っています(20歳代:17.3%、30歳代:25.9%、40歳代:27.3%)。

過去調査との比較では、「利用したい」の割合は高まる傾向で推移しています(平成26年度:56.5%→令和元年度:60.5%→令和6年度:64.1%)。「利用したいが難しい」はやや低下する傾向で推移しています(平成26年度:28.0%→令和元年度:21.5%→令和6年度:24.7%)。

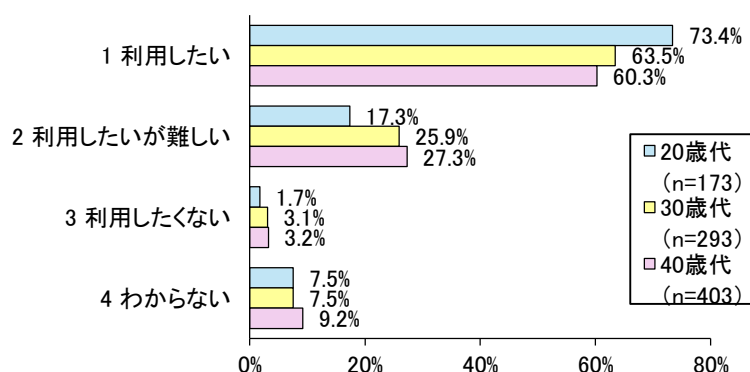
<全体>



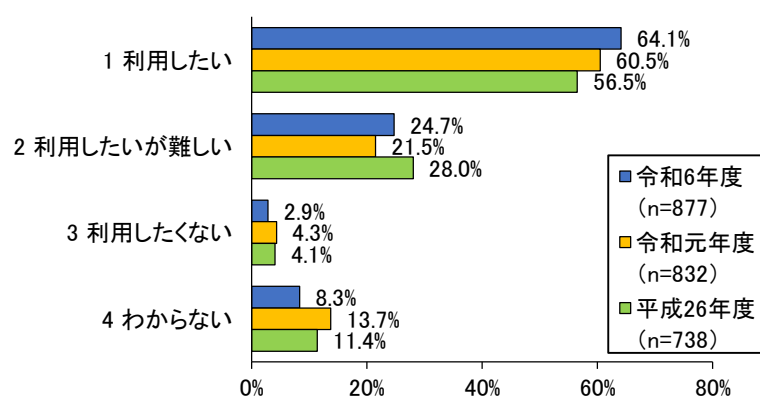
<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>



問23 問22で選択肢「2 利用したいが難しい」又は「3 利用したくない」を選ばれた方におうかがいします。
あなたがそう思う理由は何ですか。

次の項目の中から3つまで選んで○をつけてください。

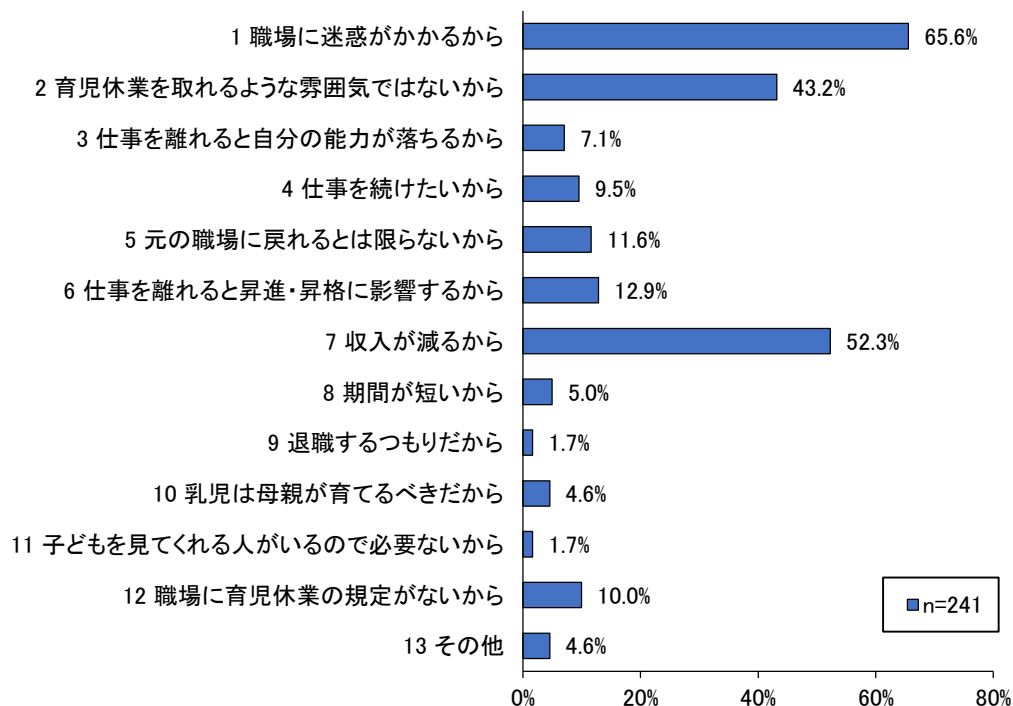
全体では、上位の3項目は「職場に迷惑がかかるから」の割合(65.6%)が最も高く、次いで「収入が減るから」(52.3%)、「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」(43.2%)となっています。

性別では、男女とも上位の項目の順位と割合はほぼ同じ結果となっています。その中で、「職場に迷惑がかかるから」の割合は男性が女性を8.7ポイント上回っています(男性:69.4%、女性:60.7%)。

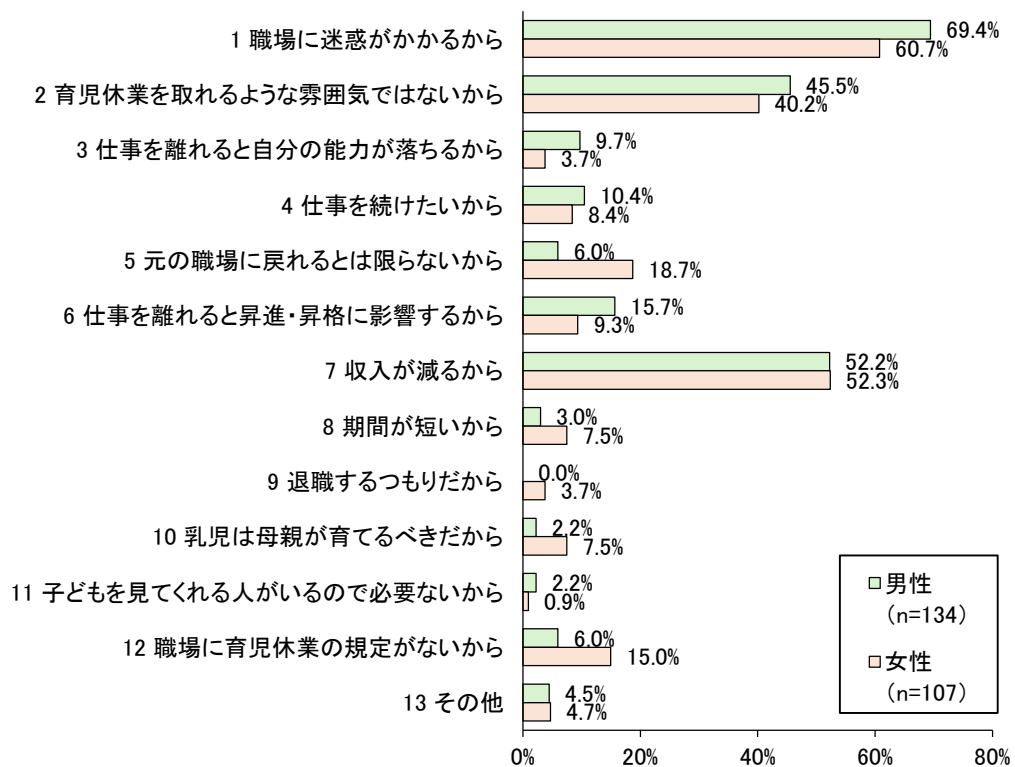
年代別では、各年代とも上位の項目の順位と割合は全体とほぼ同じ結果となっています。

過去調査との比較では、上位の項目の順位はほぼ同じ結果となっています。その中で、「収入が減るから」の割合は高まる傾向で推移しています(平成26年度:43.0%→令和元年度:49.8%→令和6年度:52.3%)。一方、「育児休業を取れるような雰囲気ではないから」の割合は低下する傾向で推移しています(平成26年度:49.4%→令和元年度:36.7%→令和6年度:43.2%)。

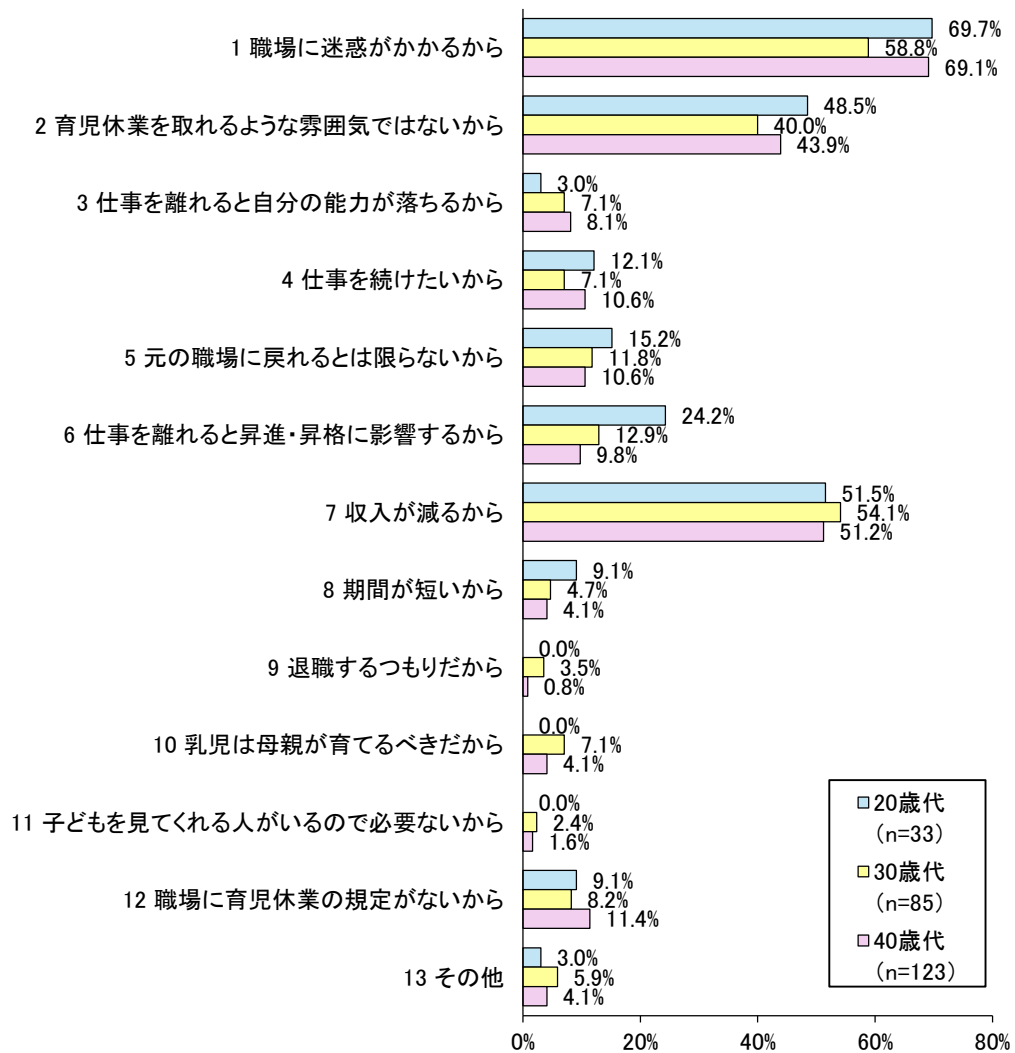
<全体>



<性別>



<年代別>



<過去調査との比較>

